

「命をつなぐ人々」救急隊員との 忘れられないエピソード

2024 救急の日特別企画

Vol.21

投稿者：いがらしさん

心から感謝している市民がいることを
知ってほしい

私は今、0歳児を育てている母親です。今年の5月末、息子が髪を解く櫛の尖った破片を誤飲した可能性があり、119番しました。

当時息子は8ヶ月、気になった物は何でも口に入れるようになった頃で、親が目を離した隙に手に細くて平たいプラスチック製の櫛を持ってガリガリと齧っていました。よく見ると櫛の一部がなくなっていて、息子も口をもぐもぐ、何度もえづいたり、口から聞き慣れない音がしたようにも感じました。もしかして食べた！？。



image photo

乳児のこの時期は誤飲が多く、重大事故につながると自治体の健診などでも聞いていました。

櫛は先端が尖っていたので喉や臓器にでも刺さったらどうしようと焦りました。ただ、すぐに救急車を呼んでよいのか少し迷い、#8000番（子ども医療電話相談）に相談してから119番しました。

電話に出た男性に0歳児が誤飲したかもと伝えると、一気に声のトーンが変わるのが分かりました。

「家は〇〇の近くですか？10分ぐらいで行けるとおもいます、家の前で誘導してもらえますか」と具体的な指示がありました。

救急車がすぐに到着。

対応して下さったのが確かYさんという男性だったかとおもいます。(名札が見えました)

この時には息子のえづきなどが収まっていた。

「見る限り呼吸ができていますのでひとまずは大丈夫かとおもいます」という趣旨のことを話され、子供を観察しながら丁寧に冷静に聞き取りをしてくれました。



image photo

今度は別の意味で焦りました。

「もしかして、誤飲していない？騒いでおおごとにしてしまった？」

私は「親の早とちりで、飲み込んでいないのかもしれませんが」と申し訳ない思いで伝えました。

するとYさんは「何かあってからでは遅いです。何もなければそれに越したことはないです。そのためにきちんと調べて一つずつ不安を取り除いていきましょう」とこちらを責めることなく、真剣な表情で声を掛けてくださいました。

不安や申し訳なさでいっぱいだった私はただただその言葉に救われました。

病院に搬送してもらうことになり、レントゲンなどで調べましたが、結局破片らしきものは見つからず、誤飲ではなかったようでした。

結果的にとはいえ、命に別状なかったのに通報してしまったことを申し訳なく思いました。と同時に、真摯に対応していただき、医療機関につないでもらい、調べてもらったおかげで、その後も安心して過ごすことができたと思い、本当に感謝しています。



image photo

このお礼を伝えねばと、中濃消防にはがきを出そうと思っていたのですが、育児の日々で恥ずかしながら手付かずのままでした。

そうしていたところ、メッセージ募集の案内を知り、今送らなければと筆を取りました。

あの日以来、救急車の音を聞くたびに「今日も皆さんお疲れ様です」と心の中で思っています。

隊員の方々は、厳しい判断が求められる場面に日々直面し、プロといえど、命にかかわる仕事の責任の重さや心労はいかばかりかと思えます。

皆さんが面と向かってお礼を言われる機会は少ないのかもしれませんが、心から感謝している市民がいることを知ってほしいです。

そんな一市民としては、激務の日々であろう皆さんがきちんと休息が取れて、無理なく働き続けられる職場環境が確保されることを望んでいます。